

5月24日（日）田辺市集会・2026年原水爆禁止国民平和大行進 日本政府は禁止条約の署名・批准を！！



木村晃和副市長

5月24日（日）田辺市集会です。田辺市の新庁舎前広場で行われます。進行は、平和委員会の津村光男さんです。まず、主催者挨拶です。庄司西牟婁地評議長は「9条は戦争しない武力に頼らないという世界でも特別な平和の理念を掲げています。軍拡がすすむ世界の中で9条は平和の灯台のような存在です。今、必要なのは軍事力の競争ではなく、信頼を作る安全保障です。核兵器意に依存する抑止でなく核兵器そのものをなくす努力です。9条はその立ち位置を示しています。そしてその9条を活かす力を持っているのは私たち市民です」と訴えます。次に、真砂田辺市長からのメッセージです。「核兵器のない未来をきり開く為に、2026年原水爆禁止国民平和大行進は世界大会の成功をめざし行進をされています皆様に敬意を表します。我が国は世界で唯一の被爆国であり、一瞬にして尊い命が奪われました。今もなお世界の多くの人達が核兵器の脅威に晒されている状況が続いています。私たちは被爆国としての体験を全世界に向けて訴え、真の世界平和の実現に務めなければなりません」と、木村晃和副市長がメッセージを読み上げます。続いて、田辺市議会のメッセージを久保浩二田辺市議員が代読します。そして久保市議はNPT再検討会議で成果文書が採択されなかった事に触れ日本原水協のコメント（5点）「1、（最終文書が）採択されなかったことは大変遺憾（残念）である。2、討論を通じて明らかとなったのは、NPT第6条の義務とこれまでの合意の履行、核兵器廃絶は国際政治でも市民社会でも世界の主流であること。今回、最終文書が採択されなかったことでそれがなくなることはない。次の第1回核兵器禁止条約再検討会議が重要。同時に、核兵器国はそれを棚上げして、他の核兵器国や一部の国への批判に終始する態度をとったことは許されない。厳しく批判されるべき問題。3、「核抑止力」論が公然と語られたこと。その克服がいよいよ重要。4、日本政府がまったく役割を果たさなかったこと。5、市民社会の役割がいよいよ重要となっており、8月の世界大会を成功させる意義がいっそう明らかとなった。」を紹介しました。最後、わかやま市民生協の代表野間名津巳さんが決意表明をおこないました。集会の参加は30人でした。平和大行進は、横断幕を久保さん野間さん庄司さんが持ち市庁舎前から出発し、弁慶通りを歩き、31号線で再び市庁舎までに戻ってくるコースを歩きました。5月25日（月）は、すさみ町です。 県原水協事務局